

長雨と日照不足の営農技術対策

平成28年6月20日
北海道農政部

長雨と日照不足の注意項目

- 1 最新の天候情報に注意して、早めの準備を行う。
- 2 小麦の赤かび病防除の徹底を！
- 3 ばれいしょ疫病に注意！
- 4 野菜と花きの病害の発生に注意！
- 5 牧草は、天候の回復を待って、速やかに収穫作業を！

北海道地方では太平洋側東部を中心に、6月1日頃から降水量が多くなっています。また、6月13日頃から気圧の谷や湿った気流の影響により、曇りや雨の日が多く、日照時間の少ない状態が続いています。

この状態は、今後1週間程度は続く見込みとされているので、随時発表される気象情報に十分注意し、次の事項の徹底に努めてください。

札幌管区气象台ホームページ <http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>

1 水 稲

水管理については、水深4～5cmとし、分げつの発生を促す。いもち病については、北海道病害虫防除所の「BLASTAM」(<http://www.agri.hro.or.jp/boujosh/>)で、6月16～18日かけて、空知、石狩、後志、桧山、渡島、留萌、上川、オホーツク管内で準感染好適条件日となったため、ほ場観察を行って早期発見に努める。

2 畑 作

(1) 秋まき小麦・春まき小麦

赤かび病防除を徹底する。赤かび粒が製品に混入していると品質を大きく落とすため、タイミングを逸しないように防除する。また、出穂がばらついたほ場や、倒伏が見られるほ場について特に注意する。

(2) ばれいしょ

馬鈴しょの疫病防除を徹底する。病害虫防除所のばれいしょ疫病初発予測(FLABS)で、すでに危険期到達日となっている地域がある。初発後急激に病勢が進展することがあるため、ほ場をよく観察し、薬剤の散布開始が遅れないように注意する。

3 園 芸

(1) 施設野菜・花き

気温が低いことが予想される日は、換気窓を閉める時間を早めるなどして夜温を確保する。

一方、ハウスを閉め切ったままにすると、多湿により生育が軟弱徒長したり、病害が発生する原因となるため、必ず朝1回は大きく換気してモヤ抜きを行う。

(2) 露地野菜、花き

ほ場の排水性が生育の良否、病害の発生などに大きな影響を与える。病虫害の発生に注意し、早期発見と適期防除を行う。中耕・除草対策についても適期作業を心がける。

(3) たまねぎ

病害の発生に注意し、過去にべと病の発生がみられたほ場では、必ず薬剤の茎葉散布を実施する。発生が確認された場合は、速やかに追加防除を行う。

4 牧草

(1) サイレージ

ア 細断サイレージを高水分で調製せざるを得ない場合は切断長をやや長めに設定し、シャープな切断面となるようハーベスタを調整する。水分75%以上の高水分で調製せざるを得ない場合は、ギ酸等添加剤を使用し、酪酸発酵による品質の低下を防ぐ。

イ 牧草刈取り及びハーベスタ作業の際に、異物が混入すると発酵品質が低下する。激しい降雨後や倒伏等により土砂や枯草等が混入しないよう、刈取り高さを調節する。また、バンカーサイロのエプロン部分の清掃やスタックサイロ周辺の整備を丁寧に行い、ダンプトラック等のタイヤによる土砂の混入が最小限になるよう心掛ける。

ウ 高水分の原料をサイレージ調製すると排汁が発生する。水系への流出が起きないように、十分な容量の排汁溜を設けるなど適正な管理に努める。

(2) 乾草

十分乾かないまま梱包した乾草は、自然発火の原因となるので、野外に仮置き後、梱包の芯部温度が外気温並みに下がったことを確認してから収納する。蓄熱を防ぐため下2段は縦積みし、堆積段数は3段以内にとどめる。